

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。				
細事業別目標 【文化支援／普及事業】	教育や福祉など各分野に対して、芸術を通したラーニングの役割をしっかりと示しながら実施する。				
事業名称	アーティスト・イン・スクール	サポーター	アーツナビゲーター研修	表現の森継続事業	数値目標記載事業
時期・日数	アーティスト・イン・スクール 2学期～3学期	(1)あつひろば 11月 1回 (2)オンライン講座 7月～12月 3回	7月～3月 4回	(1)アリスの広場 12回/1年 (2)南橋団地 4回/1年 (3)えいめい 0回/1年 (4)のぞみの家 3回/1年 (5)ハレルワ 12回/1年	(1)メンバーシップ会員 個人:72人(90人) ペア:36人(50人) 賛助:1人(2人) 法人:20社(25) 収入:890千円 (1,000千円) (2)先生の無料招待ウィーク 23人(30人) ( )内R1年度実績
場所	市立宮城小学校	スタジオ・交流スペース	スタジオ・ギャラリー 館外	ギャラリー、館外(アリスの広場、桃川小学校、南橋団地、のぞみの家など)	
学芸担当者	今井、大井田	池上、大井田	新井、今井	今井	
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	・アートによる対話を考える実行委員会 ・令和2年 文化庁 地域と協働した博物館創造活動支援事業			・アートによる対話を考える実行委員会 ・令和2年 文化庁 地域と協働した博物館創造活動支援事業	
最終修正日	2021/3/19	2021/3/19	2021/3/19	2021/3/19	2021/3/19
【目的】 ・参加者層のターゲット ・ねらい	学校生活の中で質の高い芸術に触れ、アーティストとの交流を行いながら児童・生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。  ターゲット: (1)小学校～高校の児童・生徒、教員  ・児童・生徒が現代美術の表現の多様さを知る ・アーティストと活動を行うことで、表現力が身につく	1.サポーターやアーティストによる多様な芸術体験を通して、アーツ前橋への来館促進を行い、将来の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウハウを身につける。  ターゲット:アーツ前橋に来館したことのない親子(隣接施設利用者等)  ・初めて来館して造形活動や鑑賞を体験しながら、アーツ前橋は自己や他者の表現が認められる場所であることを理解する ・サポーターが企画や運営へ継続的に関わる。	美術鑑賞は敷居が高いと思っている人たちが作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらおう。  ターゲット:事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人  ・アーツナビゲーターのスキルアップと、研修後も自主的な活動を行い、展覧会ごとに「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り	・アート/美術館が社会課題に対してどのような役割を果たせるのかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアートプロジェクトを運営することのできる人材を育成する。 ・地域の福祉/教育現場との連携関係を築く。  ターゲット:美術館から精神的/物理的にもアクセスが最も難しいと考えられる人  1. アート/アーティストを通じて福祉/医療/教育における社会課題を見つめ、美術館へのアクセスに困難を抱える人たちへプログラムの参加を促進する。 2. アウトリーチプログラムを通じて、美術館へのインリーチへ繋げる。	
【①投入】 成立予算	1,840千円	351千円	448千円	2,838千円	
【②内容・活動】 事業の概要	(1)アーティスト・イン・スクール:アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料招待ウィーク:児童生徒とのつなぎ手である教員向けに広報を行い、アーツ前橋の事業への理解を促す	サポーター等と協働しながらアーツ前橋に親しみ、多様な芸術に触れるワークショッププログラムを実施	来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。	(1)アリスの広場×滝沢達史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)のぞみの家×廣瀬智央/後藤朋美 が、定期的なワークショップやリサーチプログラムを行う。	
主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み	図工のキット教材を使ったプログラムや、学校の空き教室に作品を展示するプログラムを実施する。	・館外事業をサポーターにより知ってもらうためのオンライン講座として、作家と学芸員の対談形式でトークを収録し、動画配信を行う。 ・まちなかのイベントと連携し、広報活動を効果的に行う。	コロナの影響によりアーツ前橋の来館者との対面プログラムが困難であることから、表現の森プログラムと連動し高齢者施設の利用者とオンラインによる対話型鑑賞をテスト運用する。	コロナの影響により施設で直接的に向向くことが困難であることから、コロナ禍において可能なプログラムを探る。	
【数値目標】-【結果】	実施校数 1校	結果 1校	オンライン講座 3回 結果 あつひろば 2回	自主研修回数 5回 結果 20人	ワークショップ実施回数 30 結果 参加者数 100人
指標1		66人(6年生)			
指標2	参加者数 学校規模による		参加者数 各10組	受講継続数 10人	
指標3					
【事後記入】 【③結果、④成果】	目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピック特記事項)				

# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	学校連携事業						
	(1)アーティストインスクール	時期・日数	8月～3月		会場	宮城小学校	人数	6年生56人 +全校生徒
	(2)教員向け広報物制作	時期・日数	3月		会場	-		
	(3)無料招待ウィーク	時期・日数	6月、1月		会場	アーツ前橋	人数	24人
	担当者	学芸: 今井、大井田、事務: 小屋、高山						
	目的・目標 (総括表)	学校生活の中で質の高い芸術に触れ、アーティストとの交流を行いながら児童・生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。						
	キーワード	アーティストと児童、生徒、教員との協働での学び						
	他団体との連携 (共催、協力等)	アーティストインスクール: 宮城小学校						
参加作家	中島佑太、牛嶋直子、榎本浩子、木暮伸也、CLEMOMO、豊田共子							
関連イベント・人数	AIS: 宮城小学校 先生のための無料招待ウィーク							
①投入(支出)・③結果(収入)	印刷物等	AIS報告書						
		3000部	-	-	-	-		
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
		予算	1,840,000 円			参加費	助成金	他
		決算見込	1,800,000 円					
	差額	-40,000 円						
	予算/決算	97.8%						
②内容・活動	【②内容】 事業の概要	事業の概要 (転記)	(1)アーティスト・イン・スクール: アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料招待ウィーク: 児童生徒とのつなぎ手である教員向けに広報を行い、アーツ前橋の事業への理解を促す					
	【②活動】 主な取組(手段)の結果	広報戦略 ・新たな試み (転記)	図工のキット教材を使ったプログラムや、学校の空き教室に作品を展示するプログラムを実施する。					
	メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	・H31年度AIS報告書等、過去の実績のある印刷物を活用し、学校へAIS事業の説明を行った。 ・「あいつなラジオ」にてAIS事業の紹介を行った。					
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試み の実績	キット教材を使ったプログラムで、複数のアーティストが一堂に集まり作品制作を行う試みを実施した。宮城小学校の図工室で行い、休み時間には児童が見学を訪れ交流を図ることができた。後日、アーティストの制作の様子を撮影した映像を児童に視聴してもらい、児童たちはアーティストに刺激を受け、アイデアの発想や技法など自分なりに工夫することの面白さを発見したようで、このプログラムに対する教員からの評価も高かった。					
③結果	数値目標	指標1	目標	AIS実施校数: 4校		実績	1校	
		指標2	目標	AIS参加者数		実績	6年生56人+全校生徒	
		指標3	目標	先生の招待(参加者数)		実績	6月22人、1月2人	
	進捗管理 【スケジュール観】	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容: コロナの影響により大きなプログラム変更を行った) 開館後まで積み残しとなった事項( )						

## 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

事業名	学校連携事業				
④ 成果	参加者層のターゲット (転記)	(1)小学校～高校の児童・生徒 (2)教員			
	成果	宮城小学校の児童、教員とアーティストの交流が実現した。特に校長先生からの理解が得られたことは大きな成果である。			
	ねらい1 (転記)	児童・生徒が現代美術の表現の多様さを知る			
	成果	アーティストが制作する様子を動画で視聴し、児童は多くのことを学んだ様子である。キレイな制作物をつくるだけが図工の目的ではなく、発想や技法の自由さ、作品のコンセプトをよく「考える」こと、など新しい価値観に触れる機会となった。			
	ねらい2 (転記)	アーティストと活動を行うことで、表現力が身につく			
	成果	アーティストとの交流の中でアイデアのヒントを得たり、表現の幅が広がり、その後の児童の作品づくりにも大きく影響し、自ら工夫する姿勢がみられるようになった。			
	ねらい3 (転記)				
成果					
⑤ 波及効果	個別評価	<p>&lt;1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入目を記載&gt;</p> <p>1. 参加作家のその後の活動を評価⇒ CLEMOMOはミーナ(アーツ前橋ショップ)にてグッズ販売、ピエントアーツギャラリーにて個展開催など幅広い活動を展開している。作品制作にもAIS事業に関わったことによる関連性があるように見える(R3.3.15)</p> <p>2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒ コロナ禍で多くの学校行事がなくなり、学校側には、それに代わる思い出づりとしてAIS事業が受け入れられ、この機会にアートを学ぶ喜びを児童のみならず、教員の方にも伝えられた。常識に縛られないアーティストの発想に驚きながらも楽しんだようで、教員の方から感謝の言葉をいただいている。(R3.3.10)</p> <p>3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒中島佑太は2学期、3学期と定期的に学校へ通い続け、図工の授業以外でも体育の授業に参加したり、休み時間は児童と一緒に遊ぶなどして、児童や教員と信頼関係を築くことができた。(R3.3.15)</p> <p>4. 事業の実施に伴う波及効果⇒AIS事業に携わったアーティストやスタッフの関連の新聞記事が宮城小学校の廊下に掲示されていた。学校側が積極的に興味を持って実施に関わってもらえたことがうかがえる。(R3.3.15)</p> <p>5. 地域資源の活用という点での効果⇒</p> <p>6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒</p>			
	※記入目を○内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正				
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	<input checked="" type="radio"/> 3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
課題・改善点	<p>・コロナ禍で学校側が外部からの人材受け入れに理解していただけるかが課題。</p> <p>・AIS事業を、より広く前橋市の先生方に認知いただけるよう、効果的な広報の方法を考えてゆく必要がある。</p>				
引継ぎ事項(特記事項)	<p>・コロナの影響でもともと予定されていた学校3校でのAIS実施は全て中止となった。令和2年7月ごろから説明や交渉を重ね、唯一宮城小学校にて受け入れが実現された。その結果、学校側には大変喜ばれたプログラムとなったので、今後も児童、生徒、教員にとって貴重な学びの機会となることをアピールしていきたい。</p>				
コメント・意見	館長 副館長	<p>学校向け事業は大変難しいなか、とても粘り強く相手先と探し、実現にこぎつけたと思う。制約が多かったからこそ、子供たちもアーティストも達成感のあったはずなので、今後につながる成果になったのではないかと。</p>			
	運営 評議会				

# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名		あ一つひろば					
	事業1	時期・日数	オンライン講座(中島佑太トーク) 2020年7月8日(水)	会場	スタジオ	人数	4名	
	事業2	時期・日数	オンライン講座(後藤朋美トーク) 2020年8月29日(土)	会場	スタジオ	人数	7名	
	事業3	時期・日数	オンライン講座(八木・喜多村トーク) 2020年10月10日(土)	会場	スタジオ	人数	7名	
	事業4	時期・日数	あ一つひろば(講師:半谷学) 2020年11月28、29日	会場	スタジオ、交流スペース	人数	18名	
	事業5	時期・日数	あ一つひろば(講師:西岳拓貴) 2020年12月~3月	会場	サポータールーム、スタジオ	人数	15名	
	事業6	時期・日数	-	会場	-	人数	-	
	担当者	学芸:池上、大井田 事務:小屋						
	目的・目標(総括表)	1.サポーターやアーティストによる多様な芸術体験を通して、アーツ前橋への来館促進を行い、将来の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウハウを身につける。						
	キーワード	アーツ前橋への第一歩、親子連れの来館、サポーターの主体的な場						
	他団体との連携(共催、協力等)	サポーター						
	参加作家	中島佑太(トーク)	後藤朋美(トーク)	八木隆行(トーク)	喜多村徹雄(トーク)			
		半谷学(あ一つひろば)	西岳拓貴(あ一つひろば)					
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	チラシ(A4)	ポスター					
		1000枚	なし					
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
						参加費	助成金	他
	予算	-	351,240 円	-		-	-	-
決算見込	-	351,000 円	-		-	-	-	
差額	-	-240 円	-		-	-	-	
予算/決算	-	99.9%	-		-	-	-	
② 内容・活動	【②内容】 事業の概要	事業の概要 (転記)	サポーター等と協働しながらアーツ前橋に親しみ、多様な芸術に触れるワークショッププログラムを実施					
	【②活動】 主な取組(手段)の結果	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	子どもまつり等まちなかの大規模イベントと連携し、広報活動を効果的に行う					
	メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	「あ一つひろば」の案内チラシを館内に設置するほか、こども図書館、文化児童センター、宮城小学校にて配布した。					
●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試みの実績	・今年度は、館外事業をサポーターに改めて知ってもらい、興味の幅を広げる目的で、アーティストと学芸員のトークを収録し、YouTubeでもサポーターへ限定で公開した。 ・コロナの影響で、今年度の「あ一つひろば」の開催は1回のみしか実現できなかったが、新たな試みとして長期的なプログラムを実施中である。サポーターとアーティスト西岳氏が協働で企画を考え「あ一つひろば」を実施していく、長期プログラムを次年度も続けていく予定である。						
③ 結果	数値目標	指標1	目標	実施回数: 大規模:3回、小規模:3回	実績	オンライン講座実施回数:3回 あ一つひろば回数:1回、その他活動あり		
		指標2	目標	参加者数:450人	実績	参加者数:人	80人	
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容: コロナの影響により大きなプログラム変更を行った)						

## 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	あ一つひろば			
④ 成果	④成果 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	ターゲット:アーツ前橋に来館したことの無い親子(隣接施設利用者等)		
		成果	11月の「あ一つひろば」では6組12名の親子の参加があり、半数がアーツ前橋のイベントに初めての参加であった。		
		ねらい1 (転記)	①初めて来館して造形活動や鑑賞を体験しながら、アーツ前橋は自己や他者の表現が認められる場所であることを理解する		
		成果	アーティスト、参加者同士、スタッフと交流を図りながら、楽しんで作品を制作しているようであった。11月の「あ一つひろば」では、参加者それぞれの作品を最終的には1つの作品として展示したため、他の参加者の作品も興味を持って鑑賞していた。		
		ねらい2 (転記)	②サポーターが企画や運営へ継続的に関わる。		
		成果	・今までサポーターが館外事業に関わる機会が少なかったが、オンライン講座の実施によりアーツ前橋全体の取り組みを広く知ってもらう機会となった。今年度は実際、館外事業に関わるアーティストの作品制作補助などの活動も行うことができた。 ・西岳氏と協働で進めている長期プロジェクトでは、サポーターの自主的な活動を促す目的で行っており、サポーターから企画のアイデアを出したり、運営にも関わってもらうよう今後も続けていく予定である。		
		ねらい3 (転記)	-		
成果	-				
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を( )内に入れてください ※概ね1年経過後に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒コロナ禍で多くのイベントが中止になっている中、「あ一つひろば」の開催を心待ちにしているという参加者の声も聞かれた。(R3.3.10) 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒サポーターの自主企画「サポーターの美術」を令和3年8月に開催予定である。(R3.3.10) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒後日記入 5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入			
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	<input type="radio"/> 3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	<input type="radio"/> 3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	・コロナの状況に左右されやすい事業のため、柔軟な対応が不可欠である。 ・サポーター内の交流も少なくなっているため、交流を維持するのが困難である。引き続きオンラインの活用の可能性も探っていく必要がある。			
引継ぎ事項 (特記事項)	・令和2年12月から継続している西岳氏とのプログラムを令和3年度も続けていく予定である。コロナの状況次第であるが、一般の方へ向けたワークショップ開催を目指している。				
コメント・意見	館長 副館長	時期的に変更対応が遅くなったが、実際に活動できることを探し出せてよかった。他の事業と同様に、制約が多いからこそ、各事業の目的は何かをあらためて深く考えなおし、何を実現するべきかの優先順位を考える機会にしてほしい。			
	運営 評議会				

## 令和2年度 あ一つひろば（サポーター事業）

サポーター活動のひとつに「あ一つひろば」の開催サポートがある。

「あ一つひろば」はアーツ前橋でアート作品を鑑賞したり、工作を楽しんだり、アーティストと一緒に活動したり…ひろばのように色々な体験ができるイベントプログラムである。サポーターが運営側になり、一般の参加者の方のサポートを行う。

### 第1回「あ一つひろば」令和2年11月29日 <実施終了> 講師：半谷学

#### ■造形ワークショップ「ゆかいな植物：わたしの葉っぱとみんなの花」

アーティストの半谷学さんを講師に迎え、親子で楽しめるワークショップを開催。6組の親子とサポーターによる作品をアーツ前橋1階交流スペースに展示した。



### 第2回「あ一つひろば」令和3年2月→ <中止> 講師：西岳拓貴

#### ■機織りプロジェクト

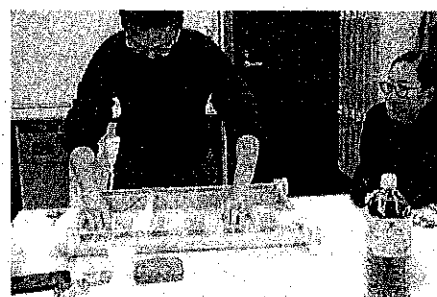
令和2年12月よりサポーターとアーティストの西岳拓貴氏が協働で開催を目指し準備を進めてきたが、コロナの影響で今年度の「あ一つひろば」は開催中止となった。そこでプログラムを変更し、長期的な展開として令和3年度も西岳氏との協働プログラムを続けていけるよう、事業を進めていく計画となった。今後はコロナの状況次第だが、一般の方へ向けたワークショップを開催できるよう準備をして行く。

#### 【スケジュール】

#### 令和2年

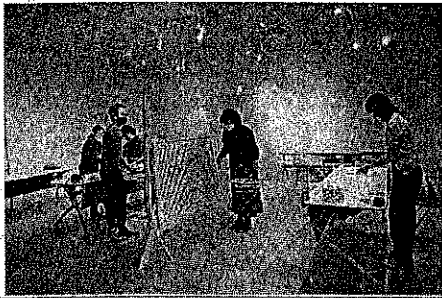
#### ■12/5 第1回打合せ

サポーターと西岳氏の初顔合わせ。「あ一つひろば」開催に向けた打合せ、アイデア出し。ここで巨大人力機織りをやってみよう、という案がでる。



■12/19 サポーターのみで機織りワークショップを実験的に実施。

作品づくりを進めるとともに、一般の方へ向けたワークショップをするための難点や、改良点を見つけ、より楽しく参加しやすい「あーつひろば」開催に向け改善点を模索した。



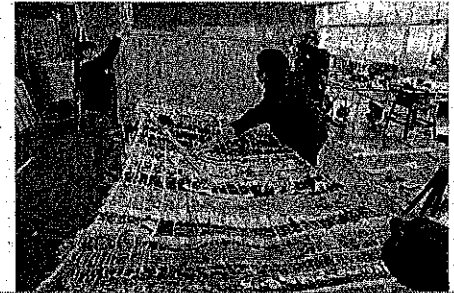
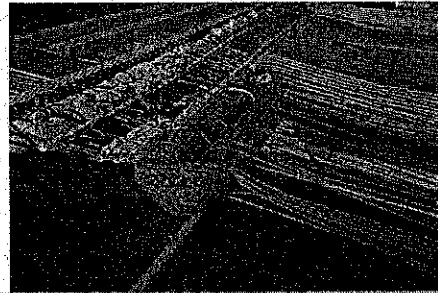
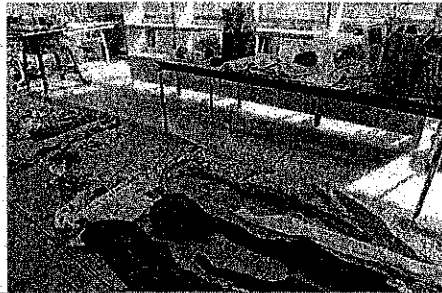
### 令和3年

■1月 新型コロナウイルス感染警戒レベル「4」を受け、今年度の「あーつひろば」中止を決定。

西岳氏との協議の上、今年度のプログラム内容変更。サポーターから機織りの素材を集め、作家とスタッフのみで作品づくりを実施し、制作した作品と制作過程を撮影した映像をアーツ前橋 1階交流スペースに展示するプランに変更した。

■1月～2月 サポーターから素材集め

■3/6 作家とスタッフで機織りを実施。映像撮影。



■3/24 交流スペースに作品と映像を展示予定

■4月以降も機織りプロジェクトを進めていくよう検討している。

以上。

# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名		アーツナビゲーター研修						
	(1)研修	時期・日数	6/28, 8/30, 10/24, 12/19, 1/19・20 計6日間		講師	齊藤佳代	参加者数	のべ45名	
		時期・日数			講師		参加者数		
		時期・日数			講師数		参加者数		
	担当者		学芸:辻・吉田・今井・新井 事務:小屋						
	目的・目標 (総括表)		美術鑑賞は数居が高いと思っている人たちや作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらう。						
キーワード		主体的な美術鑑賞、異なる視点の共有							
他団体との連携 (共催、協力等)		社会福祉法人清水の会デイサービスえいめい							
該当展覧会		企画展 「聴く―共鳴する世界」		コレクション展 「場所の記憶―想起する力」					
①投入(支出)・③結果(収入)	印刷物等		チラシ(A4)						
			3,000部						
	財務指標		収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)÷(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
							参加費	助成金	他
			予算	525,000円	-	-	-	-	-
		決算見込	342,380円	-	-	-	-	-	
		差額	-182,620円	-	-	-	-	-	
		予算÷決算	65.2%	-	-	-	-	-	
②内容・活動	【②内容】 事業の概要		事業の概要 (転記) 来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。						
	【②活動】 主な取組(手段)の結果 メディア等広報実績 新たな試み 関連イベント 助成 など		・広報戦略 新たな試み (転記) 展覧会会期中に「おしゃべりアートデイズ」を実施し、来場者とともに作品鑑賞ツアーを行う。 公民館などに参加者を呼びかける。  ・上毛新聞(2021年3月16日付掲載)						
	●指標 来館者反応 手こたえ アンケート		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]						
			【オンライン鑑賞会】 対話型の作品鑑賞という本事業の特色を損なうことなく、コロナ禍でも継続して実施できるよう、オンラインでの鑑賞スタイルを年度後半に計4回試みた。 実施に先立ち、8月より他館のオンライン鑑賞を実際に体験し、進行する際の留意事項、作品選定や解像度のポイント、Web会議ツールの比較検討・操作確認などを入念にチェックし、オンライン上での実施に備えた。 結果的に、ナビゲーターからの満足度は総じて高く、コロナ禍で活動に制限がかかってきた背景を踏まえると、今後も継続して実施できる可能性の高いオンライン鑑賞プログラムとなった。						
③結果	数値目標		指標1	目標	自主研修回数:15回	実績	1回		
			指標2	目標	おしゃべりAD参加者数:100人	実績	0人		
			指標3	目標	受講継続者数:10人	実績	9人		
③結果	進捗管理 [スケジュール観]		①A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容: )						



## 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	アーツナビゲーター研修																			
④ 成果	④成果 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層の ターゲット (転記)	ターゲット: 事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人																		
		成果	現在所属している9名については、数年にわたり本事業に関心を寄せてくださっているメンバーである。コアは60-70代であるものの、30代も2名おり、幅広い年齢層が「アート好き」という共通点で毎研修に積極的に参加してくれている。また、以前にナビゲーターとして所属していた1名より再参加の希望をいただいたが、コロナ禍で次年度の活動の予定が未定ということから、再参加については時期を改めることとなった。																		
		ねらい1 (転記)	アーツナビゲーターのスキルアップと、研修後も自主的な活動を行い、展覧会ごとに「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り																		
		成果	スキルアップに関しては、各ナビゲーターと外部講師との長年の信頼関係から、ナビゲーターそれぞれの個性・特徴に沿ったアドバイスがされるため、モチベーションを保ちながら無理なくステップアップできる仕組みが構築されている。「おしゃべりアートデイズ」に関しては、緊急事態宣言の影響により実施は叶わなかったが、その分、オンラインの自主研修等を通して個々の振り返りに大きく時間を割けることとなり、次年度活動のための土台づくりへと繋がった。																		
		ねらい2 (転記)	-																		
		成果	-																		
		ねらい3 (転記)	-																		
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を○内に 入れてください ※概ね1年経過毎 に再確認して修正	<1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒後日記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒後日記入 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒ 昨年度に引き続き、アーツナビゲーターの中から、群馬県立近代美術館や中之条ピエンナーレなど近隣他館でも対話型鑑賞の活動を行う人が出てきた。(2021/3/13) 5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入																			
		自己評価(担当者)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか</td> <td style="width: 10%;">1.非常に良い</td> <td style="width: 10%;">2.良い</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">③.普通</td> <td style="width: 10%;">4.劣る</td> </tr> <tr> <td>合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>2.良い</td> <td style="text-align: center;">③.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> <tr> <td>事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>2.良い</td> <td style="text-align: center;">③.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> <tr> <td>社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td style="text-align: center;">②.良い</td> <td>3.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> </table>	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②.良い
効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る																	
合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る																	
事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る																	
社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②.良い	3.普通	4.劣る																	
	課題・改善点	<p>【アーツナビゲーターについて】 年度末の個人面談により、2名が次年度の活動を辞退され、9名が継続希望となった。辞退の理由として、緊急事態宣言により通常の対面による作品鑑賞ができない点、実際に作品を前に鑑賞できない点が挙げられ、状況が好転すれば再参加の可能性はあるように感じた。継続者においても、オンライン鑑賞は代替プログラムという認識が強く、ギャラリーでの「おしゃべりアートデイズ」実施を望んでいる。 また、昨年度の改善点として、「来年度は新規者を募集せず、2、3年目の継続者を中心にした研修プログラムを組むことを考えている」とあったが、ナビゲーターにアンケートをとったところ、一定数より新規ナビゲーター募集の希望をいただいたため、今後の検討事項とした。</p> <p>【オンライン鑑賞プログラム】 特養老人ホーム「えいめい」とのプログラムに関しては、ナビゲーターの年齢層と先方利用者の年齢層が近いため抵抗感を示すナビゲーターもあり、今後は高齢者施設に限らず、幼・保育園や小児病院学級など他施設との関係性を探ることで解決できるように感じた。また、美術館に来ることが難しい方々とのオンライン鑑賞体験は、これまで美術館で実施してきた「おしゃべりアートデイズ」とはまた違った楽しさがあったと参加したナビゲーターから感想があり、思うように活動ができなかった今年度の本事業にとって、記憶に残る成功体験を得られたプログラムとなった。</p>																			
	引継ぎ事項 (特記事項)	次年度より、外部講師による研修のほか、①収蔵作家のアトリエ訪問、及び②「えいめい」オンライン鑑賞会(表現の森との共同実施)を予定している。																			
	コメント・意見	館長 副館長	参加者は継続している人が増え、だいが習熟していった。いっぽうで成果を見せることが腕を磨くことになるので、来年度から定期開催に移行することに期待している。「えいめい」のオンライン鑑賞会の実現は新しい試みとしてとてもよかった。																		
		運営 評議会																			

# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名		表現の森継続事業					
	事業1	時期・日数	アーツナビゲーター×デイサービスセンターえいめい 全2回(3/5、3/6)	会場	オンラインプログラム	人数	14人	
	事業2	時期・日数	滝沢達史×アリスの広場 全12回(7/22-24、9/22-24、 12/12-14、2/10-12)	会場	アーツ前橋、ま ちの保健室	人数	174人	
	事業3	時期・日数	中島佑太×南橋団地 全6回(2月～3月)	会場	アーツ前橋、南 橋団地など	人数	人	
	事業4	時期・日数	廣瀬智央・後藤朋美×のぞみ の家 全5回(7/18、10/10、10/11、 10/21、3月)	会場	のぞみの家また はオンライン	人数	人	
	担当者		学芸:今井 事務:小屋、高山					
	目的・目標 (総括表)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アート/美術館が社会課題に対してどのような役割を果たせるのかを考える機会を創出する。</li> <li>・アーティストを軸にしたアートプロジェクトを運営することのできる人材を育成する。</li> <li>・地域の福祉/教育現場との連携関係を築く。</li> </ul>					
	キーワード		美術館のアウトリーチ、人材育成、福祉や医療や教育の現場、施設や地域との連携					
他団体との連携 (共催、協賛等)		NPO法人ぐんま若者応援ネット アリスの広場、社会福祉法人清水の会デイサービスえいめい、社会福祉法人上毛愛隣社のぞみの家、南橋町自治会、ハレルワ、文化庁						
参加作家		滝沢達史、中島佑太、廣瀬智央、後藤朋美						
関連イベント・人数		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティスト・イン・スクール:アーツ前橋主催事業</li> <li>・アーツナビゲーター:アーツ前橋主催事業</li> </ul>						
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等							
	財務指標		収入(A) <small>別表から転載</small>	支出(B) <small>別表から転載</small>	収支比率 (A)÷(B)	一人当たり コスト	収入内訳	
	予算		-	3,031,230 円	-	#DIV/0!	-	-
	決算見込		-	2,988,226 円	-	#DIV/0!	-	-
	差額		-	-43,004 円	-	#DIV/0!	-	-
予算/決算		-	98.6%	-	-	-	-	
② 内容・活動	【①内容】 事業の概要		事業の概 要 (転記)	(1)アリスの広場×滝沢達史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)市内高齢者施設×石坂玄士/山賀さくら (4)のぞみの家×廣瀬智央/後藤朋美 が、定期的なワークショップやリサーチプログラムを行う。				
	【②活動】 主な取組(手段)の 結果		広報戦略 ・新たな試み (転記)	H30年度事業の反省や課題を考えながら、関係各所との連携関係を深める。また、プロジェクトを広く周知するための記録媒体の拡充を図る。				
	メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など		広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌『コトネ Vol.36』『美術館に引きこもろう』特集ページ掲載</li> <li>・上毛新聞 高齢者施設とのオンライン対話型鑑賞プログラム(3/18掲載)</li> <li>・山田創平編著『未来のアートと倫理のために』左右社</li> </ul>				
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート		新たな試 みの実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滝沢達史×アリスの広場×ハレルワによる街中の新規拠点「まちの保健室」プロジェクトによるオンラインプログラム「まちほけチャンネル」を4回実施。</li> <li>・コロナの影響により高齢者施設への外部関係者の入館が難しかったこと、また館内で実施していたアーツナビゲーターによる鑑賞プログラムの中止により、それぞれのプログラムを掛け合わせ、オンラインによる高齢者施設の利用者への作品鑑賞プログラムを実施。</li> <li>・アーツ前橋の收藏作家より、これまでのあかつきの村での活動に理解をいただき寄付が実現。ベトナム移民の子どもたちの教育支援に活用予定。</li> </ul>				

## 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	表現の森継続事業				
③ 結果	数値目標	指標1	目標	ワークショップ実施回数 36回	実績	ワークショップ実施回数 25回
		指標2	目標	参加者数 400人	実績	人
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ。 B.遅延気味であった(内容: コロナの影響により大きなプログラム変更を行った)				
④ 成果	(④成果) 期待に対する結果 観覧者層のターゲット ねらい	観覧者層の ターゲット (転記)	ターゲット: 美術館から精神的/物理的にもアクセスが最も難しいと考えられる人			
		成果	本事業は、コロナの影響を最も大きく受け、高齢者施設や母子生活支援施設など外部関係者の入館が制限される中でのプログラム実施となった。アーティストや施設の人たちとの話し合いを重ね、オンラインでのプログラム実施を行うなどの工夫をすることで、外出すずかしい方々へプログラムを届けることができた。			
		ねらい1 (転記)	①アート/アーティストを通じて福祉/医療/教育における社会課題を見つめ、美術館へのアクセスに困難を抱える人たちへプログラムの参加を促進する。			
		成果	南橋団地でのプログラムでは、関係者から高齢者の孤独死が増えているという情報をいただいたことから、高齢者へのヒアリングを始めることで、コロナ禍であるがゆえのプログラムが立ち上がり始めている。また、youtubeなどのオンラインプログラムを開始することで、これまでアクセスできなかった、人たちにも繋がるツールも立ち上げることができた。			
		ねらい2 (転記)	②アウトリーチプログラムを通じて、美術館へのインリーチへ繋げる。			
	成果	コロナ禍ということで、実際に美術館まで足を運んでいただくのは困難な状況が続いている。ただ、オンラインで繋がることで、美術館の活動自体が、社会を改めて見つめるためのプログラムとして機能し始めている。また、ゆったりアーツのプログラムは、定着し始め、参加者数が確実に増えている。				
	ねらい3 (転記)					
⑤ 波及効果	個別評価	<p>&lt;1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入目を記載&gt;</p> <p>1. 参加作家のその後の活動を評価⇒ 中島佑太は南橋団地でのプロジェクトがきっかけになり東京都現代美術館での展示に繋がった(2020.03.12) 滝沢達史はアリスの広場との活動が契機になり、群馬や岡山で行っている活動が『コトノネ』という福祉の雑誌で大きく取り上げられた(2021.03.09)</p> <p>2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒ 京都精華大学の山田創平氏が編集を務める『未来のアートと倫理のために』において、表現の森の実践手法が取り上げられた(2021.03.09)</p> <p>3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒アリスの広場とハレルワのまちなか保健室は、多くのメディアに取り上げられた(2021.03.09)</p> <p>4. 事業の実施に伴う波及効果⇒県内外の福祉関係者からの問い合わせも多かった(2021.03.09)</p> <p>5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入</p>				
	※記入目を( )内に入れてください ※概ね1年経過後に再確認して修正					
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	<input type="radio"/> 3.普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る	
	課題・改善点	コロナ禍でプログラムの変更を余儀なくされたが、これまでの施設や団体との信頼関係によりコロナ禍でも多くのプログラムを実施することができた。				
引継ぎ事項 (特記事項)	これまで文化庁の予算を主な財源として活動を行ってきたが、次年度が最終年となるため、今後の予算確保を考えていく必要がある。					
コメント・意見	館長 副館長	参加作家と受入れ団体の関係性がたいぶ安定してきた。それぞれが目的を共有できるようになっているので、改めて内容を検証し、質を高めていくための議論や研究をおこなってほしい。				
	運営 評議会					